

令和 5 年度
防災士フォローアッププログラム出席者数等・アンケートまとめ (R6.2.6)

1. 実施研修

- ① 災害時の情報収集とマイ・タイムライン
開催日時：令和 6 年 1 月 27 日 9:30-12:00
- ② リアル HUG（避難所運営ゲーム）
開催日時：令和 6 年 1 月 27 日 13:00-17:00
- ③ 家具固定・住宅耐震・家庭内備蓄
開催日時：令和 6 年 1 月 27 日 9:30-12:00

2. 研修の申込期間

令和 6 年 1 月 4 日（木）～令和 6 年 1 月 19 日（金） （16 日間）

3. 各研修の出席者数等

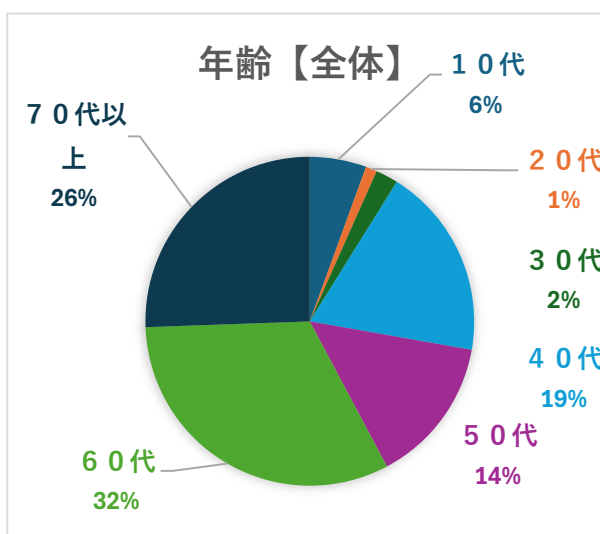
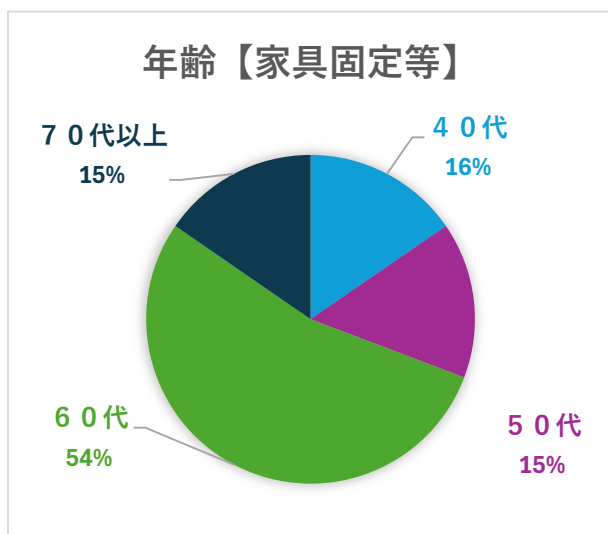
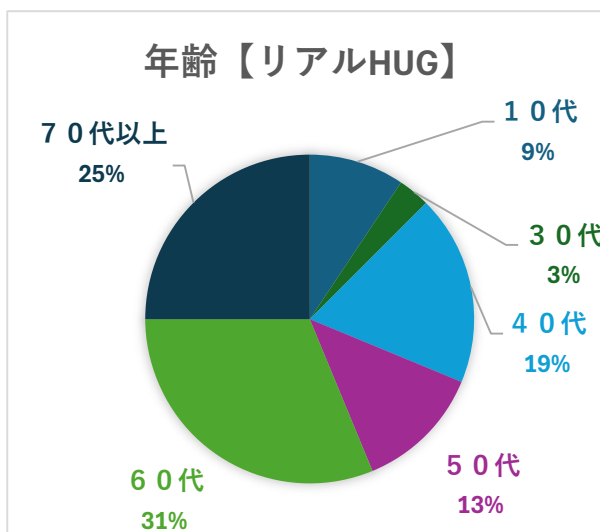
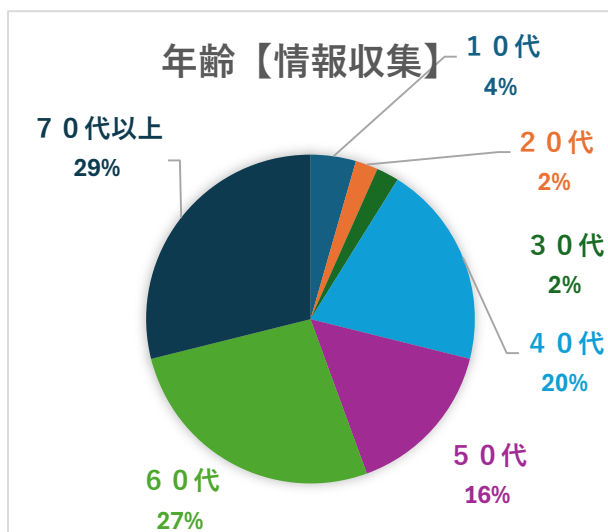
	災害時の情報収集と マイ・タイムライン	リアル HUG (避難所運営ゲーム)	家具固定・住宅耐震 ・家庭内備蓄
定員	50 人	50 人	30 人
申込者数	53 人	55 人	61 人
出席通知者数	53 人	54 人	30 人
出席者数	49 人	46 人	21 人
途中退席者数	1 人	0 人	0 人
欠席者数（連絡有）	1 人	2 人	8 人
欠席者数（連絡無）	2 人	7 人	4 人
定員超過	0 人	0 人	28 人

※「家具固定・住宅耐震・家庭内備蓄」はキャンセルに対して参加者の補充をするなどの調整を行っている。

4. 実施後アンケート結果

① 年齢[人]

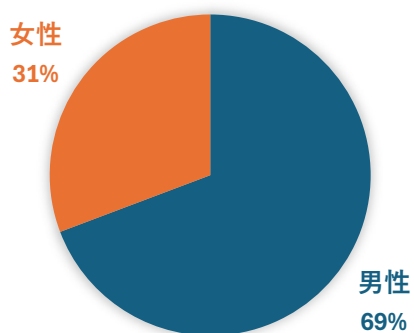
	情報収集	リアル HUG	家具固定等	全体
10代	2	3	0	5
20代	1	0	0	1
30代	1	1	0	2
40代	9	6	2	17
50代	7	4	2	13
60代	12	10	7	29
70代以上	13	8	2	23
合計	45	32	13	90



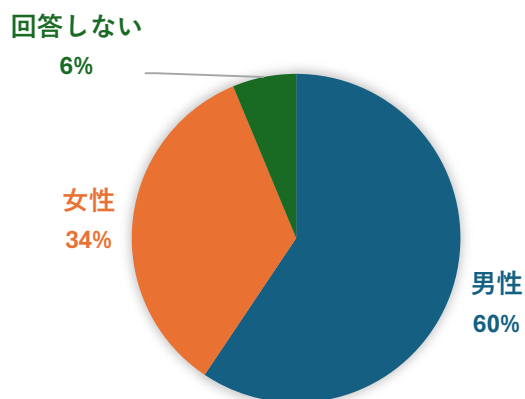
② 性別[人]

	情報収集	リアル HUG	家具固定等	全体
男性	29	19	9	57
女性	16	11	4	31
回答しない	0	2	0	2
合計	45	32	13	90

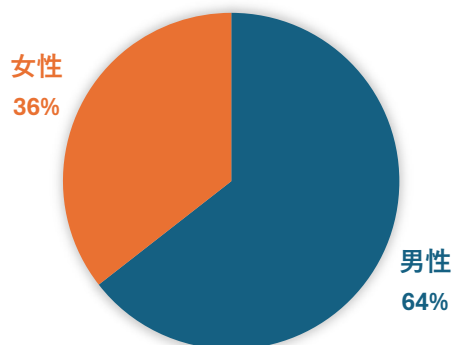
性別【家具固定等】



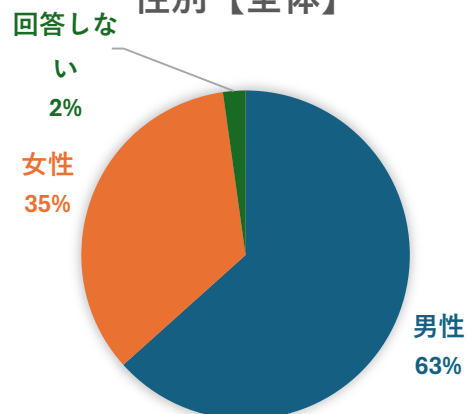
性別【リアルHUG】



性別【情報収集】

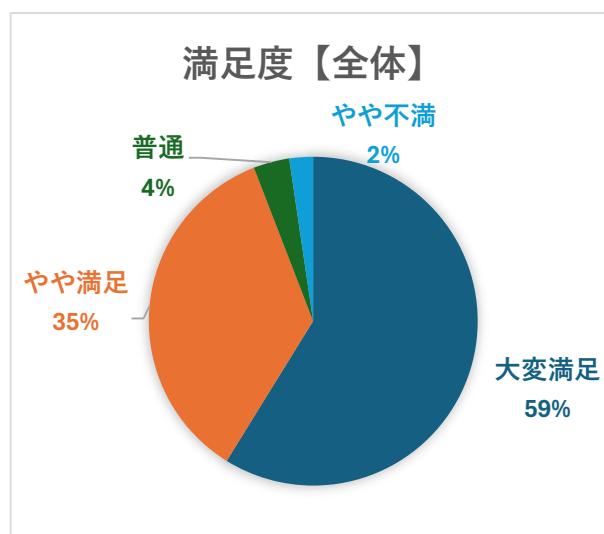
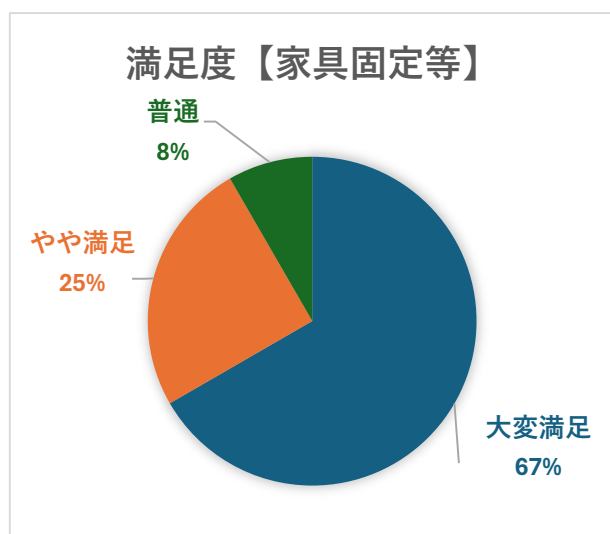
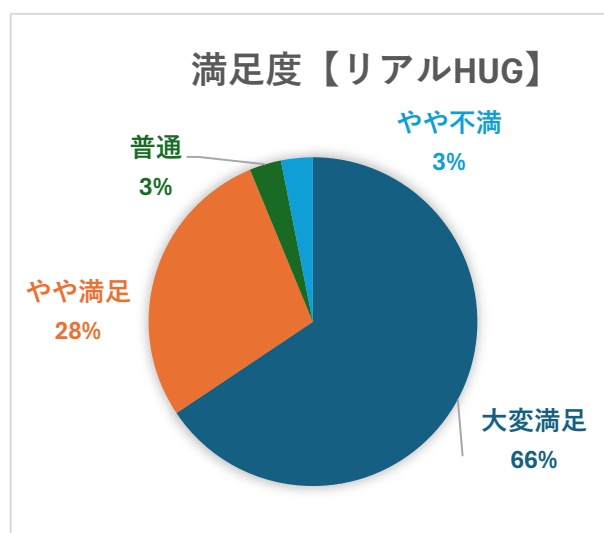
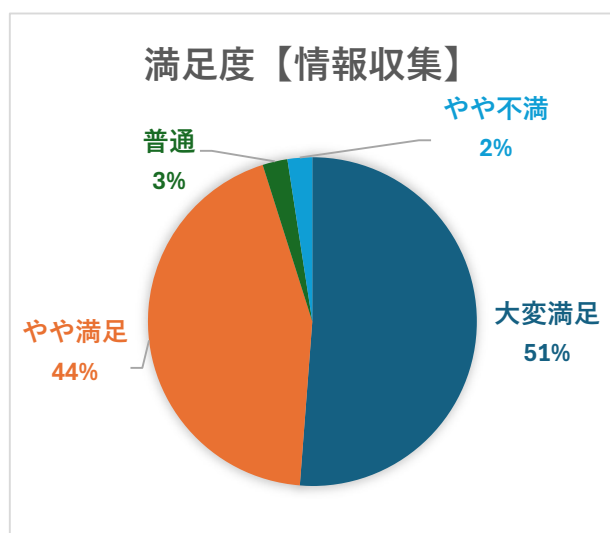


性別【全体】



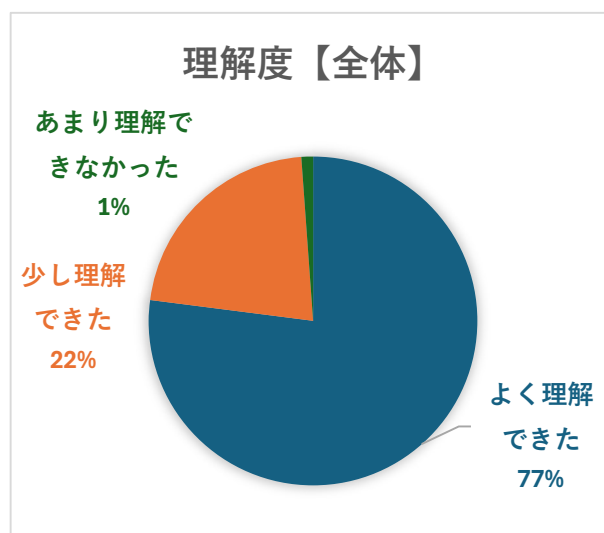
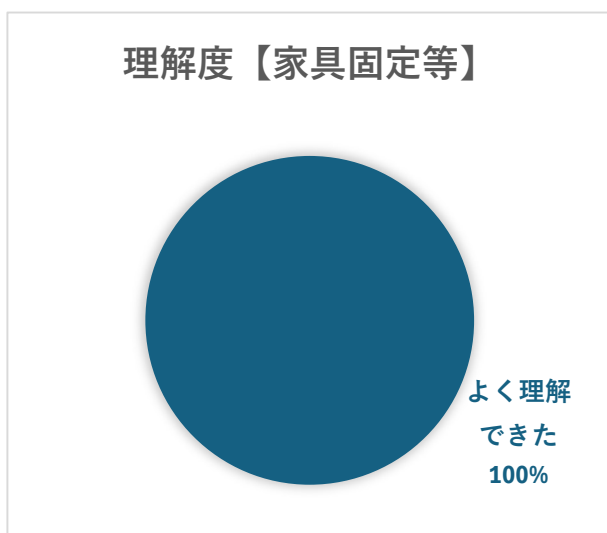
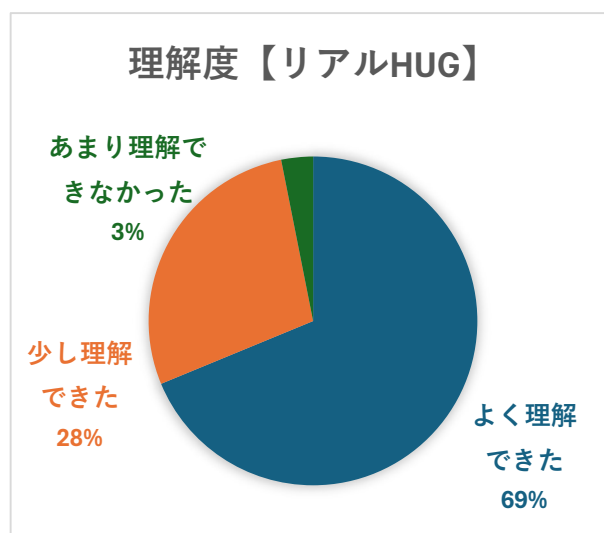
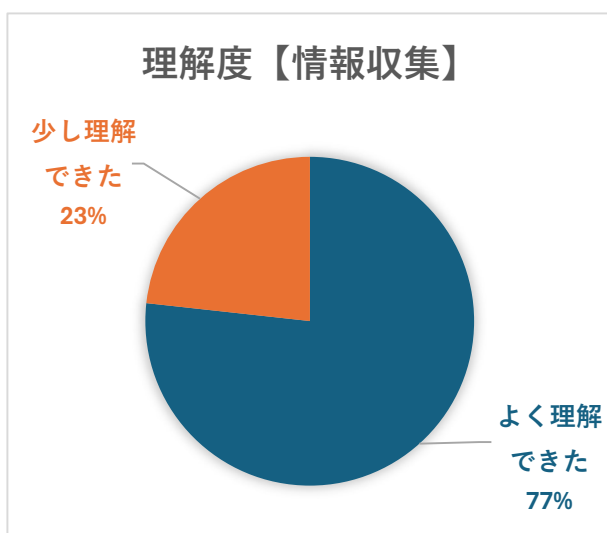
③ 満足度[人]

	情報収集	リアル HUG	家具固定等	全体
大変満足	21	21	8	50
やや満足	18	9	3	30
普通	1	1	1	3
やや不満	1	1	0	2
大変不満	0	0	0	0
合計	41	32	12	85



④ 理解度[人]

	情報収集	リアル HUG	家具固定等	全体
よく理解できた	33	22	12	67
少し理解できた	10	9	0	19
あまり理解できなかった	0	1	0	1
ほとんど理解できなかった	0	0	0	0
合計	43	32	12	87



⑤ 意見・要望

1. 災害時の情報収集とマイ・タイムライン

- 日頃気象台や河川事務所の方のお話を聴く機会がないので大変役に立った。
- 避難の動機付けとなる河川のライブカメラの設置状況を知りたい。定時の写真はあがるが、ライブはない。
- 研修内容、資料は大変分かり易く、ために成りました。ただ、スマホを使用する研修とはいえ、2～3名の受講者からスマホの音を発生させ、受講の妨げとなっていました。老人が多く、音量を上げざるを得ないことは理解しますが、せめて受講の時間内だけは主催者側から消音させるなどの指示をしていただけるとありがたいと思います。
- 携帯の画面が小さいので、資料があつてわかりやすかったです。
- 具体的な情報の収集と活用という内容だが時間が足りない思う
- 松山市の防災アプリでほとんどの情報が入手できる事が分かり、改めて素晴らしいアプリだと思いました。今日、教えていただいた情報収集のやり方を、自分で使いこなせるよう、手順に慣れていきたいと思ひます。研修中に、スマホの通知音が度々なる方がいらつしゃつて、正直、不快なレベルでした。研修開始前に、注意喚起をお願いします。
- キキクル、気象庁のHPが災害時には役立つことは知つていたがしっかり機能について学ぶことができよかったです。
- 今まで知らなかつた知識が有りとても勉強になつた。南海トラフ地震の時は家屋の崩壊危機と津波の危険が有る地区なので地区の防災訓練にて情報共有をしたいと思ひます。
- 日頃から情報をどこから取ればいか迷つていたので、非常に参考になりました。特に松山市のアプリは家族にも入れてもらおうと思ひます？
- もう少し時間を取つて説明してほしい
- 早速、グループ登録や、近くの川の土砂災害判断基準の確認などしてみます。
- 時間の制約があり仕方ないですが、もう少しアプリを操作する時間があればよいなと感じました。本日防災アプリの存在を初めて知り、内容を確認できたのでよかったです。内容によりですが、オンライン受講もあれば参加しやすいと思ひました。
- 受講してよかったです。とても参考になりました。具体的にスマホを触つて操作しながら見ることができたので、すぐに生かすことができます。何となく見ていた防災情報が、目的をもって見ることができそうです。自分のエリアだけでなく、職場や子どもの済む場所についても考えることができました。資料もとても丁寧でした。資料もカラーでとてもよく分かりました。ここまで作成するのは大変な手間だつたと思ひます。本当にありがとうございました。川の氾濫について、メカニズムが分かつたお陰で、気を付けるポイントも分かりました。川の真横だけではないのですね。賢くなりました。これからの防災活動に生かしていきます。
- マイ・タイムラインでは、安否確認やグループSOSの実演をやって欲しかった。
- 資料がとても分かりやすかつたので、楽しく学ぶことができました。大切に保管し、今後

に活かしていきたいです。マイ・タイムラインの作成はスマートフォンを実際に操作しながら説明をしていただけたので、特に分かりやすかったです。充実した内容の研修を受講でき、嬉しく思っています。ありがとうございました。

- とても有益でした
- 正しい情報収集ができる情報元へのアクセスの仕方、確認の仕方が分かりやすく良かった。こまめに二次元コードを用意して下さっていたので、スマホやタブレットさえ持っていれば年配の方にも取り扱いやすく、スムーズに情報を取得することができるのでとても良い配慮だと思った。
- 気象台の、実操作の講習は良かった。あちこちで音が鳴るのが気になったが、仕方ない。
- 国土交通省の、石手川ダムと溝辺の話は、地域住民へわかりやすく説明する土台にできる内容だったので、即戦力になると感じた。重信川の内川合流付近の話は、近隣の乗馬クラブが 都度 厩舎や馬が水に浸かる危険に遭うので（新居浜へ事前避難させた話もあったし、スタッフもいつも昼夜問わず風雨に打たれながら水門操作するらしい）注意喚起したい。
- マイ・タイムラインの実用性、活用する事により便利なアプリである事のアピールが欲しかった。入力、講習に来るまでにインストールして臨んで欲しいですね。時間も無い中での受講ですし、温度差もあるので講師の方はやり難かったと思います。
- 資料を pdf にしてネット登録してほしい。紙資料は字が小さすぎて家で読み返す時にシニアグラスでもしんどい。紙資料は枚数的にああなるのは仕方ないと思うが、当日周囲の人もメガネを着けたり外したり、資料に目を近づけたりしていた。年配の方が多いので少なからずそう感じていると思う。ネット上の pdf ならば画面上で拡大できるので読みやすく資料としてかさばらない。
- 各機関作成のアプリの紹介を頂き、良かったです。特にマイタイムラインアプリは松山在住の家族や知人に知らせようと思います。
- スマホを待ってない方や操作に慣れていない方への配慮も必要かと思われます。避難弱者と言われているのはそういった方々だと思います。独居高齢者はたいへん難しい立場に立たされるのをよく見ているので切迫感があります。
- スマホ・パソコンの使い方が得意でないため、うまく利用できるかどうかわからない。とにかく使ってみて慣れる必要を感じた。
- 気象台と河川国道事務所および市防災危機管理課の職員さんの説明が分かりやすく、気楽に研修を受けることができた。
- 防災士になって15年以上たちました。多くの講演会、研修会に参加しましたが、地域に持ち帰ってうまく活用ができていないように思っています。地域に伝達する方法などを教えていただけたらうれしいです。
- 役に立つと思うが、一回では理解できない
- 高齢者故、スマホの扱いに慣れておらず、まごつく場面有。できればスマホショップの説

明者がいてくれれば助かります。

- 松山市防災の安否確認の家族の登録方法を教えてもらいたかった
- 重信川の治水対策の歴史が分かりやすかった。歴史的にどの地域がどうなっているか理解しやすい。気象庁ホームページでは、位置登録がうまくできません（iPhone です）英語が出ます。松山市防災アプリの講習では、講師のスマホを画面に映して現状を説明していただきたい。
- 少しゆっくり説明された方が理解できやすいのでは

II. リアル HUG（避難所運営ゲーム）

- 実際に体験してみると想定外のことが多かった
- 今回のプログラムは八坂小学校であったが、自分たちの避難所での運営がスムーズにできるよう、実態を知るべきであることが分かった。
- リアル HUG は初めて体験しましたが、是非とも自分の地区で開催して欲しいです。開催実現のためにも、自分の地区の防災士としてお世話役できるよう、今後もフォローアップ研修を継続して参加したいと思います。
- 実際の運営はもっと大変なものになると思いますが、このようにロールプレイングで体験しておけるのは良かったです。
- とても有意義でした。全く想定した通りに動けず、猛省しています。どう動くべきかを勉強して、また受講します。段ボールの仕切りなどは体育館で設営運用した方がよいと感じました。
- こういう会に参加するだけあって、皆さん積極的に活発に動かれている。が、他者と話していて、知識に新旧差を感じ、もっと個々の意見感想をあげて疑似経験を共有したり、知識の事後アップデートの機会があったりすると良いのでは、と思った。
- 情報共有の重要性を痛感した。
- 実際に体験してみて、とても大変だと実感しました。時間に追われてあつと言う間に終わってしまったので、まずマニュアルの内容をグループで共有して開始したらよかったと後で思いました。また、どのような係があり、各係がどんな役割を担うか一覧であればわかりやすいと感じました。
- 避難所開設から運営までをゲーム形式で体験でき、非常に貴重な経験をさせていただきました。テレビで見ると、避難所が当たり前のように開設され、運営されている映像を見ることが多いですが、実態は想像を遥かに越え、協力なくして運営はできるものではないと肌身で感じました。
- 避難所準備キットはよくできていると思いますが、八坂小学校の運動場に集まった時点で、班編成・任務分担をして、簡易トイレの設置は救護・衛生班に担当させ、避難所の安全確認は施設管理班が担当し、安全確認ができた時点で、被災者管理班が避難者を誘導するという流れになると思います。それから、受付、誘導その他の避難者の受け入れに伴う

各班の動きになるのではないかと思うのですが。また、ボランティア班は、避難所設営初期には任務がないので、ボランティア班（総務班兼務）とすれば、総務班の一員として任務遂行が可能では？

- 初回で良かったと思う。すべての面で足りない部分があった。
- 回を重ねるとブラッシュアップされてあたりまえと思う部分が出てくるかもしれない！
- 今回はこのような大掛かりな研修の場を準備していただき、本当にありがとうございました。事前準備から相当なお時間がかかったのでは無いかと思います。実際にこの研修を受けるのと受けないのでは、実際に避難所を開設する際の手際が変わって来ると思いました。また、想定時間で暗さを変えることで、灯りの確保の大切さを体感できたのはとても貴重でした。今回の研修については大満足という大前提で、以下私なりの意見を述べさせていただきます。「自分の班以外の行動が見えなかった」時間の都合もあることは承知ですが、体育館以外でどんな準備がされていたのか全く分かりませんでした。せめて完成形だけでも見られたら良かったとおもいます。また、予算に限りもあると思いますが、録画をしてダイジェストでも公開してはいかがでしょうか。「研修の振り返りや、次回の研修立案時に今回の参加者を交えてみては？」なかなか難しいことは承知していますが、研修の運営に携わることで地域の訓練立案にも活かせるのでは無いかと思いました。「説明に一貫性が欲しい。」（個人の特定になりそうなので、詳細は伏せますが）避難所に配布されているキットの中で、説明書には使用すると書いてあるのに、実際の説明では使わなくても良い。むしろ別の方法を提示されました。もちろん、そのキットがない状況として、代替えの案としてご教示いただくのは良いと思いますが、準備キットと違う説明を受けると、「有事のときはこの準備キットの説明どおりではダメなの使えないの？」と感じました。（有事の際は状況に合わせて臨機応変に対応が必要なことは理解しています）
- 下肢から出血しているという設定の負傷者がいて、そういう場合、医者や看護師がいないか、声かけをしてくれていたのか？ちょっと分かりづらかった。また、発熱などの症状がある方を別の部屋に隔離する場合、つれていきましたが、部屋が開いて無かったので、どうしたらよかったのかな。と思いました。
- 避難者になれば避難者の立場なりの意見や、受入の担当者のスムーズな対応なのか、受入の立場で対応すると、最初は分からないのでギクシャクしていても何をすれば良いか、どの様にすれば良いか、両方の役柄をする事でよく分かり自分の役割と避難者の対応が早くなった事が自分で感じ、この様な受入対応の訓練は、自分の町内でも繰り返し訓練する事で、災害時に担当者はスムーズな対応が出来る避難所運営が出来ると確信しました。今回の準備や進行お疲れ様でした。
- 八坂地区の避難所開設マニュアルをもとに研修が進められたが、各係の各々が業務を遂行するためには、マニュアルを係員全員に配布する必要がある。食事の配布研修で、実際に現物の食品を使用する場合には、食の安全のため、一度配布したものを回収、再保管することはしないで欲しい。配布のフリだけで良いのでは。

- 思うようにうまくいかないことが多かったけど、そこから実際の災害の時何をしなければいけないのか、イメージが出来て大変良かったです。これまで持ち帰ってもうまく活用が出来ていなかったけれど、今回の研修は皆さんに正しく理解してもらえるように伝えることができると思います。
- 災害が起こった時の避難所の混乱状態が疑似体験できた事は良かった。限られた人数で行なう研修なので離れた場所（福祉避難所）は体育館内に設置した方が担当内の連絡ができると思う。
- トイレの作り方はとても参考になりました。HUG ですが、実際にやってみて、〇〇班の人に相談するとありますが、その人でも実際に避難の間仕切りを作るのに必死で、それどころではない感じでした。実際の避難所運営になればもっと混乱するのではないから思います。体育館など寒いところで避難所運営ができるのか、問題だと思いました。我々の地域は外国から来ている人が多いので、外国語で表記された物も箱の中に入れて準備できていれば良いと思いました。
- 〈気づいたこと〉体育館は暗いので、用紙の文字が読みづらい。受付はある意味でトリアージをしながら全体を把握する必要があるので、総務との連携が重要。受付をしながら人数がすぐにわかるような工夫が必要。受付後、座る場所への誘導をする人が必要。保健師さんや民生委員さんが来るまでの間、要配慮者だけでなく全体を巡回してケアする人が必要。〈わからなかったこと〉親戚の家に外泊希望の申し出の対応に困った。受付票を取出して外泊と記入はしてみたが、そのまま帰らないかもしれない人の場所を置いておくことが必要かどうか。
- 模擬訓練は、とても有意義でした。私は受付をしました。模擬訓練での工夫（各避難所で実施分も含め）を、HP にカテゴリー別（受付、衛生、救護等の各班の活動内容や手順等）に記載しておく、各々の工夫の共有が可能になると思います。昨日は、体育館のカーテンを引き、辺りが暗くなった時の支障などを体験できました。模擬訓練企画は大変だったと思いますが、避難所運営に関わる人達にとり、とても有意義な体験だったと思います。
- お疲れ様でした。学ぶ事が沢山あり参加して良かったです。ペーパーだけでは、分からない事など、やはり実践で覚える事、地区の研修、練習を積み重ねる事が大事だと思いました。ありがとうございました。
- 避難所は寒さ対策を取る必要がある。避難所開設時はマニュアルを日頃から周知させる訓練が必要、連絡指示が伝わらないのが現場であるのでその場で直ぐに移動に移れるよう訓練をしたほうがよい。避難者受け入れに時間が掛かりすぎたようだ、事前に記載用紙を渡すことで混乱を緩和出来るのではないか。
- 貴重な体験をさせて頂き有難う御座います。初めての参加で、あれ？あれ？って感じであっという間に終わってしまいました。自分の役割としては、ほんの一部だったので今後、色々な役割を体験して行きたいと思っております。この事業は、継続して行って頂きたいと思っています。

- 1.各地域の年齢も様々な防災士さんと一緒に活動が出来て楽しかった。2.ただ、研修は決めた時間内に終了しないと予定があるのでダメです。3.研修の最後に、講評のような話をされた二人の方は、誰なのか紹介がなかった？それが気になって、話の内容が理解できなかった。4.HUG の手順書？の中で「ヒント」として、八坂の運営マニュアルのページを参照しているところがあったが、該当ページに関連する項目が無いものがあった。運営マニュアルの版が違うのではないか？
- 一昨日はいろいろとお世話様になりありがとうございました。各避難所について平面図（入口、トイレ、想定されるごみ置き場、受付場所等を記入したもの）を広報にて配布し、避難所、現地の見学会を実施していただきたく、平面図は永久保存版として。避難者への周知のため。別件のお願いです。本館一階ロビー（正面入口より少し入って左側のスペース）に展示するものの内容を広報にてご連絡（〇月〇日～この様なものを展示します）していただけないでしょうか。
- 参加者の年齢がかなり高いと思いました。たった4時間の研修なのにかかなり疲れました。色々な業務に分かれていましたが今一つ業務内容がわかりませんでした。体育館が広いからか夜になると灯りが足りないと感じました。外国語のマニュアルがあると便利かと思いました。
- 大変勉強になりました。やってみたことは財産になります。私は自分の食料物資班でしたのでその班のことしかわかりませんでした。お互いの感想、反省点を共有してみたいです。
- まず驚いたのは、避難所を避難してきた人を受け入れる準備が整うまで、1時間は軽くかかるということです。その1時間、避難者は待っておかなければなりません。しかし、今回は先導して下さる担当の方や配置図があったから、1時間で済んだのです。実際に地域の方と設営するなら、もっと時間が掛かるでしょう。慣れるくらい練習することの大切さを感じました。たくさん問題が見つかりました。まず、A班もB班も「食料物資班」という名前で、てっきり「食料」の担当だと思い込み、毛布やおむつは我々の担当ではないと思っていたことです。前もって地域で各班の仕事をしっかりと認識しておくべきだと感じました。そして物は何があるのか、聞かれてもわかりませんでした。物資班なので、物の確認を始めにするべきでした。どこにあるのか、いくつあるのかの把握、準備すべき数、種類の検討付け。食料5箱と書いてあったので手前から持ってきてしまいましたが、アレルギーや好みのことも考えるなら、多種類必要でした。物を用意して組み立てていると、皆が何をしているか分からなくなりました。担当がある場合は、組み立ては避難者の元気な方をお願いし、担当に専念すべきでした。いろいろとやっているうちに同じ担当の方が何をしているかどこまで進んだか分からなくなりました。食料物資班の中でもリーダーがいるといいと思いました。食料の持ち帰りについてもルールを決めるべきでした。数も把握しておくべきだったとも。これは運営側も練習しておかないと、パニックになるなどと思いました。避難した側をしてみたときの感想です。まず受付に時間が掛かりすぎです。前もって準備しておくとか書くところは別に用意とかするといいかも。その後も何を

していいか分かりませんでした。何の指示もありません。困っている人には声を掛けますが普通の人には何もなく…。うろうろしてみたら、情報の張り紙がありました。掲示板もあることを知らないという意味がないな、と。総務係の若い子のメガホン越しの声が通らなくて、何をいっているかあまり分かりませんでした。

III. 家具固定・住宅耐震・家庭内備蓄

- 最新の情報が盛り込まれていたのが良かったです。
- 家屋の補強診断の詳しい内容の説明動画があれば紹介してほしい。
- 時期もあって普段より関心の高まった状態での受講で大変記憶に残る有意義な研修になりありがとうございました。また、防災士としての研修となると被災時対応が多い中、防災減災に関わる説明も大変参考になり日頃からの意識も再確認できたと感じました。
- 体験型で非常に良かったと思います。
- 体験できたので、理解しやすかったです。
- 確かに質問時間や同席の方とのディスカッション等も出来るとよいと思いました!受け身な講習が多い中、たとえわずかでも実践行動できたのは良かったです!
- 窓ガラスの飛散防止と、窓を割って逃げる可能性と、の兼ね合いについて疑問を感じた。全窓にフィルムを貼るべきなのか悩む。
- 各地の災害例を踏まえて、各対策内容、対応施策内容等紹介されており参考になった。実地演習の場もあり、より身近なものになったと思う
- もう少し質疑応答等の時間がとれると更に良かったと思う。

- ⑥ 今後、防災に関して受けてみたい研修
1. 災害時の情報収集とマイ・タイムライン
- 異常気象について現業の気象庁の方のお話を聴きたい。
 - 自分で受けた履歴を記憶していないので、履歴を確認し、未受講の研修を順次受講していきたい。出来れば、松山市の防災士が受講したカリキュラムの履歴を、松山市の危機管理課様にて管理し、開示していただくと幸いです。
 - 避難バッグの中身について、他の方を知りたいです。
 - 家具の固定、家庭内備蓄について具体的な実施の仕方 考え方
 - 避難所運営の課題
 - 若年層や子育て世代など年齢別の防災研修。このような研修は高齢の方が多い印象なので20～40代の方が集まれる研修があればいいなと思います。
 - 家屋の崩壊に対しての知識向上の為補強や耐震性の講習
 - 日頃の準備と心構え・子ども連れの避難・発災時の自宅避難者の動きについて
 - 女性対象の講習や高齢者がいる場合の避難についての講習。
 - 具体的な対策や活動について。防災士がやるべきこと。
 - 避難に必要な準備物の研修
 - 火災に関する研修
 - 避難所設営
 - 被災地で活動されている方々の体験談をいろいろ聞かせていただきたいです。
 - 災害の前兆を知る方法
 - 施設、病院向けの防災研修、特に土砂災害について実施していただけたらぜひ参加したいと思えます。それと、企業や事業所で、建物規模に応じて防災士をおくことを推奨、努力義務とするなどすればもっと防災意識を持つようになるかと思えます。地域貢献にも繋がりますし、研修も企業は参加義務化してもいいくらいに思ったりもします。
 - 地域の自主防災などで各地域どのような防災用品を備蓄されているのか、災害に備えてどのような活動をされているのか等、話し合えるような場が欲しい。また、モデルとなるような地域があれば参考にさせていただきたいのと、大きな備品となるようなものは皆さまからお預かりしている町内会費で購入するのに失敗できないので、有識者の方からのアドバイスやオススメのものを教えてほしい。
 - 避難所運営で、実際に遭ったこと。良かったこと、出来なかったこと、トラブル。他の「支援ボランティア」や「〇〇防災士」などとの協力や衝突事例。を聞いてみたいです。松山へ石川から移ってきた避難所運営経験者がおられる、とニュースで見ました。御本人の心身にストレスのない範囲で（録画で、質疑応答ナシ、とか）、お話を聞きたいです。
 - 能登半島地震の様な大規模災害の時は、何を備え何処まで町内の方を援助すれば良いのかお話しの交流会をしてみたいです。
 - 備蓄、非常持ち出し

- 津波について…想定外の事象にも対応できる為（例 自分が考えて自治体指定の一時避難所より、より高いところへ逃げるなど）の対策の実例について、知りたいです。
- 避難後、数日経っての避難所運営について。
- 安心・安全の避難所生活のポイントや地区住民の方たちとの信頼関係の構築については災害規模が大きくなればなるほど関心が高まってきます。これらをテーマとした研修
- 南海トラフ巨大地震についての説明があればなお良かったと思う
- R6 能登半島地震で水の問題が多かったように思っています。下水道などは、どういう状況で使えなくなるのかなど、水のインフラについて話がききたいです。
- 実際の災害現場の発生初期場面で共助のケースで役に立つ知識や気を付けるべきことなどを具体的に知りたい。
- 実地訓練
- ペットの避難所での受け入れ対応。町内の要介護者（独居老人を含む）等、災害時の安否確認及び避難対応、避難所での受け入れ対応の仕方。
- 小野川の改修について教えていただきたい。久米地区の池の改修もお願いしたい。

II. リアル HUG（避難所運営ゲーム）

- 家具固定、家庭内備蓄の実践
- 病院、福祉施設向けの避難研修を是非ともお願いします。
- HUG のカード版も受けてみたいです。
- 研修はたくさん受けていたのですが、土曜の午前は、その度に仕事を休まなくてはいけなくなるので、非常に厳しいです。同業者にも防災士は多くおりますし、様々な職種や年齢層を考えると、同じ内容で多数機会を設けてはいかがでしょうか。
- 地震に対する家屋の耐震性について
- 松山市（愛媛県）企業BCP、松山市の自主防災組織の活動や取り組み、ライフライン提供企業（電気、ガス、水道、通信）の南海地震への備え など
- 避難所に運営の問題点
- 「避難所開設フォロー研修としてパッケージにしては？」例えば、避難所開設についての研修を 3 回で 1 セットとします。1 回目:避難所にあるものの設営や取り扱い研修、2 回目:HUG（机上）、3 回目:リアル HUG、個人的に今回はいきなりリアル HUG だったので戸惑うことが多かったです。やはり過去に机上で経験されている方は視野が広いと感じました。事前の勉強があれば、より運営に関しての理解が深まったと思います。（反面、有事の際の混乱度合いをイメージするには最高でした！）セットの研修にすることで、みんなが少しずつステップアップ出来る、成功体験を積んで自信をつけてもらうことが可能だと思います。回数を増やせば危機管理課の方のご負担も多くなりますが、指導に回れる防災士も出て来るのでは無いでしょうか？（確か防災士の中でもステップアップ制度があったかと思いますが、全ての知識がなくても避難所開設に特化した人を指名できるよ

うにする等)「防災に関する情報が少ない」地域の活動報告や研修の情報をマイ・タイムラインのアプリや松山市のLINEに載せてはどうでしょうか?(制限があるのかと思いますが)各種SNSの運用も有効かと思います。(インスタは見るけどTikTokは見ない等、SNSを利用すること人間も細分化されています)

- 素人でも出来る負傷者に対する応急手当。(AEDを除く)
- どうして水が使えなくなっているのか、使えませんかと言うだけでは、避難者に正しくよう伝えられないという不安があります。水の問題をもっと詳しく知りたい。
- カードゲームのHUGをやってみたい。
- 家の防災についての研修です。
- 自分で考えてより安全なところへ避難する教育について(東北大震災前に(確か)東北大学の先生が某小学校?で、自分で考え避難する教育をされていたと聞いたことがありました。)それが、聞きたいです。
- 避難所の基本的なレイアウトの仕方など。(お薦めとかも)
- 今回は防災士対象でしたが地区ごとの地域住民をいれた訓練を行う拡大訓練をやってみたい。
- 実体験をしたいと感じました。防災士としてボランティア活動を災害現場でしたいです。まだまだ役立つことは無理でしょうか
- またリアルHUGをしてみたいです。現地の視察とかも。

III. 家具固定・住宅耐震・家庭内備蓄

- 安全な避難方法
- DIYなので出来る耐震補強や家具補等
- 防災、減災活動に関する情報も今後も受けてみたいと思いました。
- 和室における家具の固定方法。
- 災害別の避難
- 避難所設営
- やはり、実践的な講習、私達でも可能な救命措置の仕方や避難所でのケアの仕方や要介護者への対応の仕方等、理屈ではなく、現場で働いた経験者の方々に指導してもらいたいです。
- 簡易トイレの設置・使い方を意外に知らない人が多いと感じた。防災士の研修とは直接関係ないかもしれないが、松山市全戸に1つ配布して触らせてみてはどうか。また防災士のいる事業所等で周知講習をさせてはどうか。
- 防災情報の収集と活用の仕方、避難所運営の実践的研修